



瀧本 孝一 議員

一問一答方式



問………市内出身者等の高校生・大学生等に対する奨学金貸与の現状は。

答 (教育長)………大学生や専門学校生等には月4万円、高校生は月1万5千円を上限に貸与。令和3年度末で363名が利用、貸付残高は2億9610万円余となっており、申請人数は年々減少している。

問………滞納や返済状況、貸付制度の課題は。

答 (教育長)………令和3年度末で24名、金額で524万円余となっており、早期解消の取り組みを進めている。申請人数の減少傾向が課題で、奨学金を必要とする方のニーズに合っている制度か検証していく必要がある。

問………少子化対策として、貸与型から返済不要の給付型への制度導入の必要性は。

答 (市長)………大きな財源が必要となるが、公平性を考慮し本当に必要な制度を目指して様々な角度から慎重に検討して参りたい。



畜産公社が受託管理している市営牧場の様子

理事長の交代で畜産公社に期待する変革・改革は

市長 できること・できないことを真剣に精査

問………市が資本出資比率の76%を占め、これまで市長が務めてきた理事長職を民間人に変更した経緯や意図は。

答 (市長)………理事長イコール市長でなくても、立場ではなくて仕事をやるものと思いき、まずは体質改善をしたかった。

問………第3セクターの役割や、畜産公社の現状と課題の認識は。

答 (市長)………採算を度外視して、市民へのサービス。それが当初の最高理念だと思いが、時代に合わせるもの、時代に合わせてものを考えていき、バランスを取った経営をしていかなければならない。

問………何を期待するのか。

答 (市長)………課題の抽出を進め、できること・できないこと、方向を変えるべきことをこれから真剣に精査していかなければならない。

問………民間人の登用で、畜産公社の変革や改革に期待している。

答 (市長)………ぜひそういう方とは、膝を交えて話したい。



遠野市乗用場市場の開催
「馬産地岩手」本州唯一の乗用馬市場のセリの様子



菊池 由紀夫 議員

一問一答方式



深刻化する農業の現状を打破する方策を問う

市長 新しい時代に、遠野の個性をもっと向かって行きたい

問………本市の農業は畜産に水稲や畑作物を組み合わせた有畜複合経営により、各部門が循環し農業が展開されてきたが、今後の農業振興をどのようにかじ取りをして推進するのか。

答 (市長)………産業や収益性の高い作物に転換を図り、新規就農者の確保・経営構造を転換するため株式会社・農業生産法人などグループ化を図る。持続可能な農業を考えた場合協同、委ねる事が必要となる。

答 (市長)………日本の農業が向かうべき方向性があると思われる。農業の生産性を向上し、米だけに頼らず畜産

問………国際情勢の悪化により、肥料価格の高騰が確実視され、これに対応すべく肥料高騰対策

答 (市長)………国では秋・春肥料の高騰分の7割を補填、本市ではこれに上乗せして2割補填する。この状況により、高騰対策には更に交付金が出る場合は、計画を立案し国の対策に対応し、農業振興に充てる。

問………酪農を廃業あるいは

答 (市長)………需要と供給の構造的な問題から、個性を生かした経営のあり方の追及が必要。多額の設備投資による元金償還の滞り等に対応を余儀なくされている場合は、相談してほしい。国・県の動向を見据えて方針を定め、新しい時代に遠野の個性をもっと向かって行きたい。

問………事業が実施されるが、本市の支援策は。

答 (市長)………和牛繁殖に転換するなど大きな転換を余儀なくされている現状への対処は。



ホールクロープサイレージ刈取り (牛の餌として利用する稲の刈取り)

遠野の自然景観を保全するための取り組みは

市長 非農業者と小さな拠点一緒に取り組みを進めたい

問………今ある遠野の自然環境・景観を維持する事の重要性は、遠野市が永続的に発展するために極めて重要な事と考えるが、市長の考えは。

答 (市長)………遠野のすばらしい環境を守っている力は、多面的活動組織や中山間組織等の大変な苦勞により守られている。非農業者も参加して、小さな拠点とあわせ各地区での取り組みを進めたい。



直接交付金が減額されても維持されている水田牧草地